

内容別・観点別の分析

	内容別結果分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術分野においては、材料の性質と図面の引き方や工具の使い方を学ぶことができた。</li> <li>家庭分野では、家庭生活や食事に関しては、座学を重点的に置くことで、より深い学びを行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に向けての関心は高く、授業でも意欲的に課題に取り組もうとしていたが、技能面で厳しい生徒が多かった。特に製図など正確性を求められる内容は苦手な生徒が多い。</li> <li>設計図と製作品の同一性など図画工作との違いを確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材加工実習や被服実習など危険が予想されやすいため、工具の使用や安全指導に重点を置いていく。</li> <li>また、実習時の指導として全体の進捗を見ていきながら、集中が続かない生徒など個に応じた対応を進めていくことも必要である。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術分野では、生物育成に関して栽培に関して座学での学びと金属加工の実習ができた。</li> <li>家庭分野では、被服について座学で学んだうえで、実習を効果的に効率よく行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の設計図でなく自分なりのデザインを生かして設計することができた。</li> <li>工夫し、積極的に課題に取り組む生徒が多く基本的な技術を取得させることができた。</li> <li>実習時に正確性を求められる内容に関して苦手な生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作実習時は作業の効率化を目指して指導を進めていく。日々の反省の中で効率よくできるように工夫していく。</li> <li>工夫や知識を復習しながら作業を行っていくようにしていく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術分野では、エネルギー変換の基礎と電気エネルギーの変換に関して学ぶことができた。</li> <li>家庭分野では、幼児教育に関してプリントを使用し効果的に学習することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最高学年ということもあり、授業への興味関心は高く、新しいことや次のことを学ぼうとする姿勢が育った。授業には関心をもって取り組むことができており、製作実習時の技能に関しても適切に工具を工夫し使用できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心を持たせる工夫と作業を進めていくうえで、主体的かつ効果的に行っているような支援に重点を置く。</li> <li>実生活に役立つ事例を挙げて、自分の実際の生活へフィードバックができるような指導を行っていく。</li> </ul>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に向けての関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。</li> <li>技能面で課題のある生徒が何名かいた。</li> <li>知識理解については、定着の差がかなりあることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用目的に応じた工具による使用方法を検討させる。それによって作業の効率を高める工夫をさせる。</li> <li>知識・理解の達成率を高めるために、授業のなかでの説明だけでなく、振り返りの時間をとり生徒自身で確認をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配布資料や教室の掲示物の充実を図り、作業を効率的に進めていけることができるようにしていく。</li> <li>ワークシートを用いて作業の振り返りを増やすことで、工夫や、知識理解を深めていく。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に向けての関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。</li> <li>技能面では昨年度よりも改善されてきている生徒が多い。</li> <li>知識理解については、定着の差がかなりあることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材についている図面にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。</li> <li>作業工程表を充実させ、作業の目的を明確にし、必要な作業を適切にできるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業を効率的に進めていけるように、自分なりの計画をたてることのできるようにPDCAの力をつけていく。</li> <li>生物育成においては地域との関連性を取り上げて、食育や地産地消につなげていく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題への関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。</li> <li>技能では早さと正確性を両立できるようになってきている。</li> <li>知識理解については、まだ定着の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用目的に応じて自分でデザインを行う。さらに作業の効率を高める工夫をさせる。</li> <li>知識・理解の達成率を高めるために、振り返りの時間を重視し、より生徒自身で確認をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業が早く進んだ生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めるようにする。</li> <li>作業の遅い生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒に進めるようにする。</li> </ul>